

久留米

[July 17, 2015]

## 高専通信

第79号

久留米工業高等専門学校  
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1  
TEL:0942-35-9300  
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

## 新入生へのことば

アリストテレスを引くまでもなく、なにがしかを修得するためには繰り返すことが大切である。小稿の内容が、入学式告辞や1年生合宿研修の開講講話の中身と重複するところがあったとしても、故あってのことだご海容願いたい。

入学式告辞で、私が諸君に強く訴えたかったのは、勉学には、「学ぶ」と「思ふ」という2つのタイプがあるということ、久留米高専の教育理念1つである「自立の精神」(Spirit of Independence)の意味である。前者については、もう一度「学<sup>くら</sup>びて思<sup>あやふ</sup>はざれば則ち罔し、思<sup>あやふ</sup>ひて学<sup>くら</sup>ばざれば則ち殆し」(『論語』為政編)という言葉<sup>を</sup>を記しておこう。後者は、学ぶことの主体は自分自身であり、勉学の成否もまた自分自身が負うというもので、自己責任という厳しい内容を含んでいるが、同時に個人の主体と自由を尊重する素晴らしい理念であると思う。

5月8日の1年生合宿研修開講講話で、私は、研修の目的の1つは、「自己確認」にあると述べた。夏休みを前にした今でも、そのことはまだ必要だと考えている。少なくともこの1年間、新入生諸君は、自分は何者であり、自分は何を目指しているのか、自分の課題は何か等々といった疑問と真剣に向き合って行ってほしい。それらの答えを出すための一助として、高等専門学校という教育制度の特長や評価、高専生のキャリアイメージ等を理解することが求められるだろう。そのうえで、久留米高専についても、その特長をよく把握してほしい。久留米高専が君たちに何を提供し、君たちをどこに導こうとしているか等について考えてほしい。そうした思考を経て、君たちの久留米高専での勉学はゆるぎないものになるのだと思う。

人とも出会いがあるように、スポーツにも出会いがある。自分にとっては、柔道との出会いは一生を左右する大きなものであった。開講講話では、柔道の創始者である嘉納治五郎先生の「柔道」の定義と、「精力善用、自他共栄」という言葉を



久留米工業高等専門学校  
校長 三川 譲二

紹介した。「柔道」とは、心身の力を最も有効に使用する道であり、「精力善用」とは、心身を最も効率的に使い、自他共に栄えることである。これらの概念は、柔道のみならず、エンジニアリングはもちろんのこと、他のいろいろな分野にも応用されうらと思う。嘉納先生は、この他にも数々の名言を残しておられるが、その紹介は他日に期したい。

開講講話では、「夢」と「目標」、「志」の違いにも触れた。「夢」は、将来実現させたいと思っていること、漠然とした願いのことである。「目標」は、実現・達成をめざす水準のことである。「夢」をさらに具体的かつ計画的なものとするため、それを實現するための期限<sup>デッドライン</sup>が設定されなければならない。「志」は、夢や目標よりも一段次元が高いものである。「志」の中には、ある事を成し遂げようとする気持ちの中に、世の中をより良いものに変える、人のためになる、というような崇高な理想が息衝いている。適例は、「宇宙飛行士になりたい」(夢)、「九州大学で航空工学を学び、NASDA(JAXA)で働く」(目標)、「人類のために宇宙開発に従事する」(志)という若田光一さんの場合である。

開講講話の最後に、江戸時代の儒学者佐藤一斎の2つの言葉、「一<sup>ひと</sup>の字、積<sup>た</sup>の字、甚<sup>おそ</sup>だ畏<sup>おそ</sup>るべし」と「凡<sup>おほ</sup>そ大<sup>お</sup>硬<sup>こ</sup>事に<sup>あ</sup>遇<sup>あ</sup>わば、急<sup>いそ</sup>心<sup>こころ</sup>もて<sup>も</sup>割<sup>わ</sup>決<sup>けつ</sup>するを<sup>す</sup>消<sup>く</sup>い<sup>く</sup>ざれ。須<sup>すべ</sup>らく<sup>く</sup>姑<sup>く</sup>之<sup>の</sup>れ<sup>を</sup>を<sup>お</sup>く<sup>べ</sup>し」(大<sup>お</sup>硬<sup>こ</sup>事<sup>じ</sup>=難<sup>が</sup>題<sup>だい</sup>、急<sup>いそ</sup>心<sup>こころ</sup>=焦<sup>あせ</sup>る<sup>こと</sup>、割<sup>わ</sup>決<sup>けつ</sup>=決<sup>けつ</sup>断<sup>だん</sup>、舍<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>=放<sup>はな</sup>つて<sup>おく</sup>こと)を紹介した。新入生の諸君は、今まさに「一<sup>ひと</sup>の字」である。これがどのように「積<sup>た</sup>の字」となり、卒業・修了を迎えていくのが楽しみである。しかし、気負うことはない。難しいことが生じたら、しばらく休めばよい。きっとよい知恵が湧いてくるはずだ。

## 主事挨拶

## 2期目の教務主事

教務主事 和泉 直志



2期目の教務主事を務めます。また2年よろしくお願い致します。さて、この9月で本校へ来て5年を終えることとなります。丁度本科の在学年数と同じ長さです。この間で印象に残った2つのシーンがあります。ひとつは着任して間もない頃、実験室の2つのテーブルの段差がある日解消されていたことです。よく見ると誰の仕業か、脚の下に木片が敷いてありました。これで随分と使い勝手がよくなりました。もう一つは「君たち実験が上手だね」と褒めたときの「僕たちもう高専の5年生ですよ」という返事でした。いずれも5年生との出来事ですが、不便に対する対応力と実験実習を重ねてきた誇りを感じさせるものでした。頼りなく見える1年生も、やがて5年になって立派に巣立っていくことを楽しみに、事あるごとに「勉強せい、留年するな」と繰り返しながら、慌ただしくしています。

## 自由を守れ！

学生主事 辻 豊



モラルとルールの違いを知っていますか？ある人は、「モラルは良心や内心の命令として、個人の決断によって生み出される、いわば自分自身に対して自発的に与える規範であるのに対して、ルールは強制的に与えられた限界線である」と説明しています。社会生活を営むにおいて、我々はたくさんのルールによって縛られています。考えてみると、すべての人が、周りの状況を考え、高いモラルを持って行動することができたら、ルールは必要ないはず。一旦ルール化してしまうと、ルールができた背景は忘れられ、ルールを守ることが目的となりかねません。また、ルールが複雑になると柔軟な対応が困難になるため、新しいことに挑戦しにくくなります。本校の教育はルールが少なく自由であることがその特徴です。学生さんが高いモラルを持っているから実現する教育です。最近、本校の自由が危機に直面しています。学生のモラルの低下が一因となっていることは否めません。このままだと、ルールが増えて本校教育の良さが失われてしまいます。

再び、二年間、チャンスをいただきました。皆さんがいろいろなことに挑戦できるように協力したいと考えています。そのためには自由な校風は守っていかなければなりません。本校の自由を守るのはあなたたち一人一人の行動なのです。よろしく！

## 寮生の皆さんへ

寮務主事 石丸 良平



今年度より寮務主事を拝命することとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。寮の運営に関しては、昨年度までの方針を引き継ぎ、寮生会の自主性を尊重した運営を行っていきたく思います。寮生活に関する要望や改善点など必要なことがあれば、寮生会を通じてどんどん提案してください。もちろん、すべての要求が叶うわけ

はありませんが、寮生の皆さんと一緒により良い環境の寮を作っていきたいと思っております。ただし、学生寮はホテルのような快適なサービスを提供する場ではなく、あくまでも共同生活を送る場ですので、規則を守った生活が求められます。毎日の点呼、清掃、門限など決められた日課がありますし、規則が守られないと処罰もあります。堅苦しい話になってきましたが、球技大会やバーベキューパーティー、外国人留学生との文化交流会などの楽しい行事もあります。遊ぶ時は思い切り遊ぶ、やるべき時はしっかりやる。学生寮を通じてメリハリのある高専生活を満喫していただきたいと思います。

## 実践・創造・グローバル化対応

専攻科主事 池田 隆



今年度も5人の専攻科主事補の先生方と一緒に専攻科の運営を担当します。平成5年の設立以来600人を超える専攻科修了生が、企業、大学院などへ進み活躍しています。4月から本校は特例適用の認定専攻科となり、学士取得の際に課されていた筆記試験なしで所定の手続きと専攻科研究論文に関する報告等により学士取得可能になりました。

また、来年実施の専攻科入試から英語の筆記試験に代えて、推薦・学力入試ともTOEICの成績提出となります。専門に関する実践性や創造性を高めることに力を注ぐことは当然ですが、グローバル化に対応し英語でのコミュニケーション力も不可欠です。学生の皆さんは日々英語力の向上に努めつつ、英語レベル測定指標の一つとしてTOEICを活用して下さい。

専攻科修了のエンジニアは、実践力、創造力そして国際コミュニケーション力も高く就職・進学何れでも優れた力を発揮する、求められる人材の枠に留まらず修了生自身が自信を持って自己の意思と能力を示せる、そのような姿を目指し皆さんと共に頑張りたいと思っております。

## PDCA

企画主事 江崎 昇二



企画主事の業務内容は、学校の「自己点検評価及び渉外業務」に関することです。学生会で言えば、総務局と渉外局のそれぞれの一部を担当しています。

自己点検評価の主な内容は、マネジメントサイクルともいわれるPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルの「P」と「C」の部分に相当します。渉外業務の主な内容は、ホームページや、この高専通信などの広報活動ならびに国際交流などの各種交流活動の推進です。

ここ数年、国立大学では、国の財政赤字と少子化に伴う再編が進んでいます。高専も同様の状況であり、様々な改革が求められています。これらの動きは、学生の皆さんが直接感じることは少ないと思いますが、内部では、かなり変化が起きている。

この様な中、本校も、様々な方面からの要請にこたえるべく、改善を続けていく必要があります。将来を見据えて、どのように改善すべきかを、皆さんと共に考えていきたいと思っております。

## 新任教職員紹介

三川 譲二

職名 校長

採用日 平成27年4月1日

前職 舞鶴工業高等専門学校  
副校長(教務主事)

抱負 久留米高専の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、皆様とともに更なる発展をめざして行きたく存じています。なにとぞよろしくお願いいたします。

趣味 柔道 書道 将棋 俳句



細野 高史

所属 機械工学科

職名 准教授

採用日 平成27年4月1日

前職 信州大学  
学術研究院(工学系) 助教

抱負 長野県の信州大学で9年間助教として過ごした後、縁あって機械工学科に着任しました。機械加工の講義や加工実習を担当しますので、他学科の皆さんとも関わる機会があると思います。高専での仕事は初めてですので特に講義の内容には課題が山積みと感じられますが、今後、学生の皆さんと一緒に分かりやすい授業を作り上げていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

趣味 登山と料理が趣味ですが、家に幼児がいるため登山は控えています。すっかり体が鈍ってしまいましたが4月から自転車通勤を始めたため、少々体力が戻った気がします。



清長 友和

所属 材料工学科

職名 助教

採用日 平成27年4月1日

前職 京都大学 物質-細胞統合  
システム拠点 特定研究員

抱負 今年4月に材料工学科に着任いたしました清長です。私はこれまで、金属ナノ粒子触媒や光触媒、さらには有機配位子と金属イオンからなる多孔性金属錯体(多孔性配位高分子)に至るまで、様々な材料に関する研究に携わってまいりました。これらは工場での利用に留まらず、ご家庭内での利用など、多くの場面での利用が考えられ、今後の事業化・産業化が期待されている材料です。私はこれら無機材料の新規合成ならびにその特性の評価を通じて、より高性能な材料の創製を行ってまいりたいと考えております。

さて、私が担当する授業は基礎材料化学、材料機器分析実験、材料化学実験等です。いずれの科目も、材料に携わる技術者として習得しておくべきものばかりです。私の経験を踏まえて、わかり易く実りある授業を行いたいと思います。また将来、どのような分野の仕事に就いても必要となる、自ら考え自ら学ぶ姿勢や柔軟な思考ができるよう、授業の方法にも力を尽くしたいと考えています。

趣味 読書(サイエンス、歴史など)、音楽鑑賞(ロックを中心に幅広く)、野球観戦



谷野 忠和

所属 機械工学科

職名 准教授

採用日 平成27年4月1日

前職 長崎総合科学大学  
工学部機械工学科 准教授

抱負 4月から早2ヶ月が経ちました。長崎では規模の小さな私学にいて、学生数も多くはなく、学生の印象もやや大人しかったのですが、久留米高専に来て、まず驚いたのは、学生が元気で活動的なことです。授業中も、良くも悪くも積極的に関わってきて、楽しく、慌たしい時間を過ごしている今日この頃です。

また、赴任してきたばかりで、各授業の準備に追われる毎日ですが、学生たちとのやり取りを通して、学生たちの興味や関心を引き出せるような授業を心掛けたいと考えています。

また、研究面では、小規模発電用の小型風車の空力性能に関する研究や、流体・材料に関わる数値シミュレーションなどの研究を行っています。これらの活動が、学生の刺激になり、また学生の教育に繋がっていくようにしたいと考えています。

趣味 ドライブ、街歩き、ぼんやり考えること



篠崎 烈

所属 機械工学科

職名 准教授

採用日 平成27年4月1日

前職 有明高専 機械工学科 教員

抱負 久留米高専に赴任してきて、あらためて「高専」の良さを実感しています。3月までの短い期間で、その「違い」と「良さ」を、有明高専に持ち帰りたいと思います。

私は、有明高専で学生として5年間、教員として10年間を過ごしてきました。合計15年間に有明高専で過ごしてきましたので、その良さは人知れずとして語るができます。ただただ、「やはり所変われば・・・」ということで、久留米高専には久留米高専の良さがある、当然、違いがありますね。学生の皆さんや教職員の皆さんと触れ合い、いろいろと話をして何かに気付くことが一番の収穫です。

教員生活11年目の今年、新しい場所で新しい出会いを大切にしていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

趣味 鉄道や飛行機のDVDや図鑑を見ることです。2才の子供と一緒に寝る前の「新幹線DVD鑑賞」が日課になっていて、N700系、N700Aの区別がつくので、博多駅だけでも2時間は暇をつぶせます。



中島 めぐみ

所属 生物応用化学科

職名 助教

採用日 平成27年4月1日

前職 九州大学大学院医学系学術  
医学専攻博士課程

抱負 14年前に生物応用化学科の第一期生として卒業し、本年4月に、教員という立場でもう一度久留米高専の門をくぐらせていただきました。色々な思い出のつまった母校で教壇に立てることをとても嬉しく、また光栄に思っております。視点を180°変えての学生の皆さんや先生方との交流はとても新鮮で驚きの毎日です。特に学生さんは、私の在学時に比べ、大変しっかりしており、すべてのことに自主性をもって真面目に取り組む姿がとても印象的で感心しています。まだまだ未熟ではありますが、自身がこれまで学んできたことに関して率直に、平等に、正しく伝えることを念頭に、また本校の卒業生としては久留米高専らしさを忘れない技術者の育成に努めていきたいと考えております。

趣味 フルートです。中学から高専はもちろん大学まで部活はずっと吹奏楽部でした。今は演奏する機会も場所もほとんどなく、少し寂しく思っています。

## 新任教職員紹介



**藍澤 光晴**  
 所 属 一般科目(文科系)  
 職 名 准教授  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 私立大学講師 公立高校講師

**抱 負** 経済史の研究に従事してきました。本校では政治経済、経済学を中心に担当します。多様な知識の涵養のためには政治や経済などの知識の習得は必要なものだと思います。とりわけ「社会」に埋め込まれている政治・経済を的確に把握することは、「社会」人にとって大切な素養です。

わたしは、情報や知識をみなさんに伝達することはできますが、知恵を伝えることは不可能です。知恵は最終的にみなさん一人一人が自らで考えて獲得できます。そのためにはまずは、疑いましょう。とりあえず、疑ってみましょう。そのための援助は可能な限りしますのでよろしく願います。

**趣 味** 旅行、読書



**横溝 彰彦**  
 所 属 一般科目(文科系)  
 職 名 准教授  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 純心中学校・純心女子  
 高等学校 教諭

**抱 負** これまで中学、高校、大学で英語を教えてきました。前職は10年間女子校でしたので、久留米高専に来て、男子学生と話ができるのを楽しんでいます。専門は異文化コミュニケーションという分野ですが、その分野では性別も研究対象として扱うことがあります。男女の違いなどを日々の学校生活の中で観察しながら、個性豊かな学生の皆さんの将来への可能性を伸ばすために努力していきたいと思います。

**趣 味** 美味しいものを食べること。お勧めのレストランなどを教えていただけると喜びます。



**沖田 匡聡**  
 所 属 一般科目(理科系)  
 職 名 助教  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 九州大学大学院数理学府  
 (学生)

**抱 負** 去年まで博士課程の学生であり、今年度から数学の教員として着任しました。数学の中でも偏微分方程式論(解析学)の研究を行っています。微積分や関数論などの解析学ことを複雑で面倒くさいと感じている学生も多いと思いますが、解析学は工学の分野でも非常に重要でよく用いられる分野です。解析学の奥深さや面白さを高専の学生と共有していきたいと思っています。まだまだ分からないことも多いですが、学生からも学びながら成長していきたいと考えています。今後ともよろしく願います。

**趣 味** 囲碁・将棋、映画鑑賞



**星野 哲也**  
 所 属 総務課用度係  
 職 名 用度係長  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 九州大学病院事務部

**抱 負** 平成27年4月に九州大学病院より転任してまいりました星野と申します。

皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、まずは顔と名前を憶えていただければ幸いです。

ご迷惑をおかけすることも多いかと思われませんが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

**趣 味** 読書・歩くこと



**小櫻 可奈子**  
 所 属 総務課施設係  
 職 名 係員  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 大阪大学施設部  
 整備課機械第一係

**抱 負** 建物の修繕や保守など、施設に関する業務に携わっています。

早く仕事を覚え、迅速に対応できるように努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

**趣 味** 読書・映画鑑賞



**岩田 永佳**  
 所 属 総務課 総務係  
 職 名 事務補佐員  
 採用日 平成27年4月1日  
 前 職 久留米大学病院

**抱 負** 総務の仕事は初めてのため、不慣れな面も多いですが、一日でも早く業務を覚えて皆様のお役に立つよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

**趣 味** 茶道・食べ歩き

## 新任教職員紹介



川島 さやか  
 所属 総務課 用度係  
 職名 事務補佐員  
 採用日 平成27年4月1日  
 前職 筑後川河川事務所  
 久留米出張所 非常勤職員

抱負 4月に総務課用度係に採用になりました。校内の物品の管理と、供給の作業に従事しております。早く仕事を覚え、先生方の授業や研究の準備のお手伝いを通して、皆様の充実した学生生活に貢献できますよう努めてまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

趣味 写真



黒川 あいら  
 所属 学生課図書係  
 職名 事務補佐員  
 採用日 平成27年3月16日  
 前職 大学図書館司書

抱負 司書としてまだ未熟な点もありますが、学生の皆様と共に成長してスキルアップし、よりよい図書館づくりに貢献していきたいと思ひます。不慣れなためご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますが、よろしくお願いたします。

趣味 読書

## 留学生紹介



### 機械工学科3年 ノー

はじめまして、私はノーです。マレーシアから来ました。私の趣味はサッカーと運動です。久留米高専に来て、もう二ヶ月たちましたが、まだ慣れていません。「環境が違うので、生活もちろん変わる」と思いましたが、全然違います。なぜかという、ここの生活とマレーシアの生活ではそんなに大きな違いがありません。例えば、寮生活や朝早く学校へ行くなど日本とマレーシアは同じです。違うのは言語だけです。来日する前に、マレーシアで2年間も日本語と一般科目を勉強しました。日本語を勉強しましたが自信がありませんでした。なぜなら、授業中だけ日本語で話していたからです。だから、日本に来たばかりの時、コミュニケーションのことがすごく心配でした。最初はもちろん大変でしたが、先生とクラスメートはとても優しいし、いつも助けてくれて、ここでの生活も少しずつ慣れると思ひます。私はクラスメートと一緒に卒業できるように最後まで頑張りたいと思ひます。



### 電気電子工学科3年 アディバロスリ

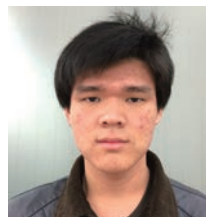
4月3日にマレーシアから日本にきました、20歳のアディバロスリです。日本に来る前に、いろいろなものを準備しました。日本語は2年間ぐらい勉強しました。それだけでなく、日本の文化と歴史を少し勉強したことがありました。しかし、どんなに勉強しても、実際に日本で勉強するのは違いました。日本語も沢山勉強しましたが、日常で話さないの、最初は他の人とコミュニケーションができませんでした。次は、私はイスラム教なのでハラール(HALAL)フードしか食べられません。これも最初は難しかったです。今は、先生方と先輩たちのおかげで、日本で生活することにどんどん慣れてきました。クラスメートと相談もできるし、自分で食事探せます。私は昔から日本のことが好きなので、今毎日楽しく学校生活を過ごしています。Impianku sudah menjadi reality. (私の夢は現実になりました。)



### 電気電子工学科3年 ギー

初めまして、ガボンから来ました留学生のギーです。私は2014年4月3日に来日して、一年間東京日本語学校教育センターで日本語を勉強した後、久留米高専の電気電子工学科へ来ました。

私の趣味はサッカーをすることと、音楽を聞くことです。そしてバスケットボールを見ることも好きです。高専を卒業したら、日本で就職するか、日本の大学へ進学を考えています。この目標を達成するために高専での三年間を一生懸命勉強していきたいと思ひます。周りのクラスメートと先生方に協力もして貰いながら頑張りたいと思ひます。よろしくお願いたします。



### 生物応用化学科3年 クリストポル ダフィン

はじめまして、クリストと呼んでください。僕はインドネシアから来ました。趣味はバスケットボールと料理を作ることとゲームをすることです。

僕は今年の4月に久留米高専の生物応用化学科3年生に編入学しました。これから生物や化学のことだけでなく、これから成功するための習慣やマナーも学びたいと思ひます。更なる高みを目指して久留米高専での学生生活を楽しまたいです。しかし言語や文化、習慣の違いのため大変なことがたくさんあります。特に勉強や社会のことですが、しっかり頑張って久留米での生活に慣れていきたいです。

僕は"Dream as high as possible, lower the expectation of being success"ということわざを心に秘めて生活していきます。「しっかり頑張るけれども、いい結果を取ることを考えない」という意味です。何事にも油断せず、勉強や日々の生活を楽しまたいと思ひます。これからよろしくお願いたします！

## 新入生の抱負

## 高専生活の抱負

機械工学科 1年 豊増 大志

4月に私達新入生は久留米高専の一員になりました。今までは中学生でしたが、これから新しい学校生活が始まり、実習や勉強、部活動など初めてのことや、新しく経験することが沢山あり、しっかりやっけて行けるかどうか、不安がありました。しかし、先生や家族、そして上級生である先輩からの多くの励ましの言葉をいただき、とても安心しました。また、私は中学校で体育祭や文化発表会などの行事に対して、積極的ではありませんでした。そこで、高専では、自分の考えや目標を持って進んで行けるように、3つのことを実践しようと思います。1つ目は、自分が全力で頑張れることを1つ持つことです。私はこれを部活にしました。私は部活に入ってから毎日がとても楽しいです。2つ目は、クラスメイトとの交友関係を深めて、困ったことがあればお互いに助け合えるような友達になることです。みんなで一緒に進めば、どんな大変な目標でも、一人で考えているよりも強く進められると思うからです。最後に、3つ目は日々の学校生活を誰よりも楽しむことです。学校生活を楽しみ、充実したものに出来るよう、真剣に色々なことに取り組んで行くことで、積極的な人間になれると思うからです。この三つのことを中心に日々進歩があるような5年間を送りたいと思っています。また、5月に行った夜須高原での研修はとても良い経験になりました。一日目のオリエンテーリングは同じ班のみんなと協力してチェックポイントを見つける度に、絆が深まっていると感じました。二日目は学科対抗のレクリエーションがありました。結果から言うと機械工学科は負けてしまいましたが、終わった後はみんなの仲が良くなりました。この二日間を通してクラスみんながお互いをよく理解できたと思います。そしてこれからも大きな行事が沢山あります。その度にクラスみんなとの仲を深めて、充実した楽しい5年間を送りたいです。

## 学校行事を通して

電気電子工学科 1年 永松 直樹

久留米高専に入学して3ヵ月近くが経ちました。これまでの行事や日々の学校生活の中でたくさんを経験させていただきました。

まず私たちは入学して1ヵ月後に合宿研修で夜須高原青少年自然の家に行きました。そこで、オリエンテーリングや学科ごとでの交流をしたり、高専での生活について先生や先輩方から話を聞いたりしました。オリエンテーリングでは、班のメンバーで役割を協力してこなすことで、多くのチェックポイントを回ることができました。仲間と目標を達成した喜びは、忘れることのできない大切な思い出になりました。その日の夜のクラス交流会ではお互いに自己紹介をしました。改めてクラスメイト一人一人のことを知ることができ、これからの学校生活が楽しみになりました。次の日に先生方から、高専生活での注意点や進路についての話をいただきました。そこで、高専は自由であるとともに、自分の責任で何でもしなくてはならないということを学びました。しっかり自分にけじめをつけて5年間過ごしていこうと思いました。この夜須研修での学年の目標であった「人のために何かできることをする」ということもでき、とても充実した2日間になりました。

また5月にはクラスマッチがありました。クラスマッチでは、バスケで学年2位になることができました。クラスの一人一人が自分の競技を頑張ったからこそ、この結果を残すことができたのだと思います。次は他の競技でも好成績が残せるよう、クラスメイト全員で協力して頑張りたいです。

最後に高専に入って初めての中間テストがありました。初めてということもあり、少し不安だったけどしっかりできたと思います。このテストを通して、入学時に先生方がおっしゃっていたように、日々の勉強の積み重ねの大切さを改めて感じました。分からないことがあれば、分からないままにするのではなくそのつど解決して、復習をするということが続けていこうと思いました。この反省を生かして、期末テストに向けて勉強していきたいです。

これからの5年間、自分の行動に責任を持って過ごしていきます。そして多くのことを勉強し、多くのことを経験できるようにしていきたいです。

## 新入生の抱負

## 久留米高専に入学して感じたこと

制御情報工学科 1年 戸上 史崇

久留米高専入学して既に一か月以上。

時間の流れが異様に速かった気がします。

高専で過ごす時間がとても楽しいものだから、そう感じるのだろうと、私は思っています。

入学してからしばらくは、新しい同級生に話しかけることができず、同級生からもなかなか話しかけてもらえない、という状況に陥るかと思いきや全くそんなことはなく、すぐに音楽やゲーム、アニメといった共通の趣味を持った友達が何人もできました。

高専、特に制御情報工学科には、よく似た趣味を持つ人達が多く集まっていると分かり、感動しました。

夜須研修に行く頃にはかなり親しくなることができ、初日から存分に楽しむことができました。また、研修を通して更に友達が増え、よかったと思います。

部活動に関しては、兼部もでき、どの部の先輩も優しく、丁寧で、自分の好きなことを楽しむことができます。

私は、軽音楽部、吹奏楽部、文芸部の三つを兼部していますが、無理することなく続けることができます。

軽音楽部では、部費を払えば部室の機材を週一回好きに使うことができ、良い環境で練習することができます。特に私はドラム担当で、家にドラムがなく、本格的な練習ができないため、とても助かっています。また、新入部員に対しては、先輩による楽器講習会もあり、初心者でも入部しやすくなっています。

吹奏楽部は大変そうだと思っていましたが、それほどでもありませんでした。与えられた楽譜をマスターし、合奏に参加しさえすれば、吹奏楽部を休んで他の部に行くこともできます。他の部員や先輩との会話も楽しく、それ故に練習をさぼってしまうこともありますが、とても楽しいです。

そして文芸部。この部は、部員が集まって何かをするわけではありません。それぞれの部員が、小説などの書きたいものを書き、それらを集めて部誌にします。他の部員や先輩とのつながりは薄くなってしましますが、それでも、自分の書いた物が本の形になるというのはうれしいものです。

部活動について長々と書いてしまいましたが、やはり、部活動にも入った方がいいと思います。様々な経験を積めるし、何より楽しいからです。

確かに勉強も大事です。就職の心配もしなければなりません。しかし私達は十代です。

十代というのはやはり、楽しく過ごした方が良く、私は思います。もしかしたら、ただ楽しむためにやっていたことが、将来役に立つかもしれない。勉強に真面目に取り組み、将来の心配もしつつ、やることには責任を持って、明るく楽しく過ごしていこうと思います。

## 合宿研修で得られたもの

生物応用化学科 1年 瀧口 賢吾

実を言うと、合宿研修前、私はクラスの名前をほとんど覚えていませんでした。いわゆる「顔と名前が一致しない」という状態であり、気軽に話せる人はあまり多くありませんでした。そんな状況だったので、みんなと寝泊りに行くという今回のイベントに対しては、あまり気が進みませんでした。

フィールドワークの時のことです。班のメンバーは、あまり話したことがない人ばかりなので危機感を覚えながらも、人見知りな私は誰かに話しかけてみようとは思いませんでした。しかし、山道と一緒に歩いているとだんだん打ち解けてきて、普通に言葉を交わせるようになっていったのです。勇気を持って一度話してみると、その後は自然と普通に話せるようになっていて、という良い例だと思えます。最初の一步を踏み出すのが大変なだけで、ちょっとしたきっかけと、ほんの少しの勇気があれば案外何とかなるものだな、と実感しました。

「なぜこんな時期に合宿を？」と思っていましたが、研修が終わって、ようやくその理由が分かった気がします。今ではクラス内で話せる人もだんだん増えてきました。そのきっかけを作ってくれたのが、この合宿研修です。



## 新入生の抱負

## 学生生活の感想と抱負

材料工学科1年 國分 あかり

「高専」—私はその存在を知ったのは、昨年の夏のことでした。「高専」と聞いて、まず最初にイメージしたのは、物々しく、浮世離れた雰囲気のある場所でした。しかし、先輩方のお話を伺ったり、クラスメイトや先生方と実際に接することで、そのようなイメージは完全に払拭されました。入学からまだ二ヶ月程度しか経っていませんので、わからないことも多く、不安が完全になくなったわけでもありませんが、最近では学生生活における目標や抱負について考える余裕も出てきました。ここでは、今までの学生生活の中で特に印象に残っていることと、今後の学生生活の抱負について述べたいと思います。

まず、材料工学科一年のクラスメイトについて触れたいと思います。最初はそれぞれの特徴的な性格に少し驚かされましたが、まとまりに欠けるといったことはなく、他のクラスに比べると非常に早い段階で全員が打ち解けていました。気づいたときには、誰に対しても気兼ねなく話しかけられる、和気藹々とした雰囲気のクラスができあがっていました。クラスメイト達と話をしてみると、私と同じように、皆が「自立したい」と考えていることがわかり、とても嬉しかったです。もちろんクラスメイトだけではなく、先輩や先生方も親しみを持って接して下さる方ばかりだったので、入学前に想像していたよりも、ずっと楽しい学校生活を送ることができています。

次に、先日行った夜須研修です。丸一日、クラスメイトの皆と一緒に過ごすことで、普段とは違う一面を知ることができました。オリエンテーリングやレクリエーションなどのイベントでも、他学科の同級生や上級生の方など、様々な人と親睦を深めることができました。夜須研修への参加によって、人間関係がさらに広がったことを実感しています。一方で、久留米高専の自由な校風には大きな責任が伴うことも、夜須研修全体を通して痛感し、気が引き締まる思いがしました。これらの経験を通じ、私は今、高専とは「一人一人の個性を輝かせ、自立を手助けしてくれる場所」であると考えようになりました。

同時に、クラスメイトをはじめ様々な人たちとコミュニケーションをとり、積極的に交流をはかることの大切さも学びました。高専に対するイメージも、クラスメイトに対する印象も、実際に触れ合う前と後とで、全く変わらないなどということはなく、むしろ大きく異なってくる、という経験をしたからです。私は、久留米高専で今後の学生生活を送る上で、「人との交流を大切に毎日を楽しく過ごす」という目標をたて、そしてその目標に沿って日々自分の能力を高めていきたいと思っています。

## 公開授業

## 保護者の皆様への公開授業について

教務主事 和泉 直志

保護者の皆様への授業公開を4月20日(月)～22日(水)の3日間実施し致しました。この授業公開は、実際に本校の日常をご覧頂くこと、ご覧になったご感想・ご意見から本校の教育を点検することを目的に、平成22年度に初めて行なわれました。以来、今回で6回目となります。平成24年度と25年度はともに128名のご来校、昨年26年度は163名と過去最多でしたが、本年も昨年に次ぐ148名の方に参観頂きました。多数のご来校に心よりお礼申し上げます。

本年度の学年別の参加者数は、1年71名(昨年度91名)、2年32名(同35名)、3年24名(同26名)でした。4年生は18名(同9名)、5年生は3名(同2名)でした。まとめると、2年、3年、5年がほぼ昨年と同数、4年生は増えましたが1年生が20名減少したため全体では昨年より15名の減少となりました。なお、この約1カ月後の後援会総会のご出席は348名でした。

さて、この公開授業では参観者の皆様に①開催時期、②教員の指導、③学生諸君の真剣さについてアンケートをお願いし、4段階で評価していただいております。本年は131名の方にご回答いただきました。①の開催時期については、適切60%、ほぼ適切37%と評価して頂いております。②の教員の指導については、「大変分かりやすかった」26%、「分かりやすかった」55%で、いずれも前年の28%と59%から下がりました。この減少傾向は昨年度も見られたもので注視していきたいと思っております。③の学生諸君の授業態度については、「大変真剣であった」16%と「真剣であった」69%をあわせて86%で、昨年度の84%から微増して一昨年と同じになりました。

このアンケートにはご要望やご意見を自由に書いて頂く欄があり、71件の記述がありました。このうち公開授業の実施について「普段の姿が見られて良かった。」というようなご意見が10件、複数回実施のご要望が3件ありました。実施方法に関して、教室への入りにくさや見学のし難さを指摘されたものが17件ありました。教員の授業について「締まった楽しい授業であった」など肯定的なものが9件、「学生の様子を見ながらしっかり伝えて欲しい」など否定的なものが12件でした。学生の授業態度については「子供達の成長が感じられた」というような肯定的なものが6件、「ずっと寝ていた」など否定的意見が4件でした。その他、校舎や教室の古さや清掃の徹底をご指摘になったものが5件ありました。ご指摘頂いた点については出来るところから改善していこうと考えております。



## 学生行事

## ケータイ安全教室

生物応用化学科1年 原 侑里

先日、本科の一年生を対象に、ケータイ安全教室が行われました。

私たちの身近にあるケータイ。私も高専生活の中で、電車やバスの路線情報、クラスメートや先生との連絡、授業関連の調べものなど、さまざまなことにケータイを活用しています。しかし、このケータイ教室で、ケータイには便利さの裏側に危険も隠されていることがわかりました。その中で二つのことについて気をつけなければならないと思ったので、紹介します。

一つ目は、架空請求などの詐欺についてです。最近ではyoutubeやメールにURLを貼り付けてサイトへ誘導するワンクリック詐欺や、LINEでのなりすまし詐欺などがあるようです。安全フィルターをかけたり、怪しいサイトに入らないようにしたりなど、日ごろからそのような詐欺に引っかからないように注意しておきましょう。

二つ目は、SNS上での情報の管理についてです。TwitterなどのSNS上に個人情報を書き込むと、特定されてしまう恐れがあるようです。よくTwitter上でプリクラを載せたツイートを見かけることがあります。インターネット上でのトラブルを防ぐために、SNS上での個人情報を掲載するのは止めましょう。また、SNS上に勝手に他人や芸能人の写真を載せるのは、肖像権の侵害となり犯罪です。気をつけましょう。

このケータイ安全教室で、私も幾つか思い当たる節がありました。今回学んだことを生かし、これからのケータイの使い方を見直したいと思います。

## 暴力団排除教育を受講して

制御情報工学科1年 井上 陽水

私は、暴力団そのものを実際に見たことはありません。刑事ドラマでたまにでてくるような人しか想像することもできません。だから、自分たちには関係のないことだと思ってしまうようになっていました。

ところが昨年、テレビを見てみると、暴力団についてのニュースを見る機会がありました。それは、自分が住んでいるところの近くで起きた事件でした。身近でもそのようなことがおきていることに少し恐怖を覚えました。

そして今回、暴力団排除についての講義をきいて、福岡県内の暴力団の多さに驚きました。合法ではない薬物を売りさばいたり、詐欺をしたり、決して許されることではないことを残念に思うと同時に、恐ろしく感じました。急速に発達していくインターネットを使って若い人や、お年寄りの人をだましていく行為が許されることではないということを再認識することができました。

今現在、福岡県内の暴力団組員数は減少していると聞きました。組員数の多い福岡県から少しでも早く暴力団という存在を少なくするためには、警察の努力だけでは足りない部分があると思います。これから私達が学んでいく専門的な技術や今までに培った経験から、多くの暴力団組員を減らすことができたら、と願っています。

## 前期クラスマッチ 中央執行委員会体育局

局長 材料工学科3年 松尾 拓海

皆さんいかがお過ごしでしょうか、随分前になりますが5月13日～14日にかけて前期クラスマッチが行われました。行った競技はサッカー、バレー、バスケットボール、長縄、女子ドッチボール、女子バレーの6競技を行いました。

二日目は途中で市が野焼きを行ったためサッカーを一時中断することになりましたが、無事クラスマッチを終わらせることが出来ました。

それでは結果発表です

サッカーは1位5年材料2位2年機械3位2年電気という結果になりました。下級生が奮闘しており、上位に入賞する結果になりました

バレーは1位5年材料2位4年機械3位3年電気という結果で、どのクラスも頑張っていて素晴らしい試合ばかりでした。

バスケットボールは1年生の部1位材料2位電気、2年生の部1位機械2位電気、3年生の部1位生化2位機械、4年生の部1位機械2位電気、5年生の部1位生化2位機械という結果になりました。バスケットボールは各学年でトーナメントを組んで行いました、同じ学年で競い合うということで、どれも白熱した試合が見られました。

長縄は各クラス22人で団結して一番飛べた回数を競うもので、各クラス男女協力して長縄を跳んでいました。

女子競技は女子バレーが1位両手におにぎり2位チーム岩田、女子ドッチボールは1位がましゅあ 2位がhagilineという結果になりました。どちらも会場が盛り上がる試合ばかりでした。

今回のクラスマッチはとて面白い試合ばかりで素晴らしいクラスマッチになったと思います



## 学生行事

## ビジネスマナー講習会 中央執行委員会 機械工学科4年 見良津 凜

6月18日16:00~17:30に、本校のD4教室にて主にインターンシップに行く学生を対象としたビジネスマナー講習会を開催しました。第二回目となる今回の講習は、昨年の事後アンケートを参考に、「服装、身だしなみ」「手紙、メールの書き方」「言葉づかいについて」「実技指導」の4項目の内容に決まりました。また講習時間をアンケートで「講習時間をもう少し長くしてほしい」という意見が多かったため、昨年の1時間から1時間半に延ばし、実施しました。

本講習会を開催するにあたり、講師として株式会社魚国総本社九州支社の田川剛様にお越しいただきました。田川様は、4項目を中心にビジネスマナーについて幅広く話され、1時間半と言う限られた時間で、重要となる点をわかりやすく詳細に教えていただきました。講習終了後に実施したアンケート結果も評判がよく、参加学生にとって有意義な時間になりました。

おかげさまで、参加学生の人数は144人と大盛況でした。来年度も是非ご参加ください！



## 文化部発表会 文化部発表会実行委員長 制御情報工学科4年 川崎 靖広

6月27日土曜日に第四回文化部発表会が行なわれました。当日の天候は概ねくもり。来場者はのべ1255人(実行委員による計測)。

ステージで行われた軽音部によるバンド演奏は4年生が多く出演しており、自分たちも、もう4年生になったのかとふと思いました。どのバンドもクオリティが高く体育館の温湿計の値が上昇しました。それから実行委員のイベント部署が考案したイベントも参加者多数で嬉しい気持ちになりました。中でも午前中、行われた「ネ○リーグ」はスクリーンを用いたクイズ大会で圧倒的盛り上がりを見せました。団体コンテストはダンスやヲタ芸、劇やコント等三組が披露した結果、実は私と学生会長の宮崎凜さんと結成した「ふらんソーズ」が優勝し電子レンジを景品としていただきました。これでいろんな物を温めていきたいです。そして入学して約3ヶ月のまだ高専に染まりきっていない一年生たちによる一年生コンテストでは体育館いっぱいに来場者が入り、多くのクラスがダンスや歌、劇を披露しました。その他、ピアノ部による「スーパーマリオブラザーズのテーマ」と「蕾」の演奏、吹奏楽部による包み込まれるような広がりのある演奏、ダンス部によるキレのある圧倒的ダンスで体育館の温湿計はピークを何度もむかえました。

また体育館やウェーブホールなどを用いて自動車部・写真部・自然エネルギー部・美術部・新聞文芸部・プログラミングラボ部・ロボットコンテスト部・鳥部が日頃の活動の成果を展示で表現していました。展示団体のコンテストの結果は写真部の優勝でした。

これらの盛り上がりは、実行委員会だけでは不可能でした。展示・出演いただいた文化部、団体枠出演者、学生課の先生方、教職員の皆さん、そして参加していただいた学生のみなさんがいて実現できました。実行委員会の未熟なところも多々あったかと思いますが準備・運営にご協力いただきありがとうございました。

最後に、高専祭にもご期待ください！



## 寮の行事報告

寮務主事補 川嶋 克利

## ● 対面式 ●

4月7日(火)の夕食時に、寮食堂にて対面式が開催されました。今年度は筑水寮に36名の男子寮生、つつじ寮に10名の女子寮生を迎え入れることになりました。さらに、マレーシアからノー君(機械工学科3年)、アディバさん(電気電子工学科3年)、ガボン共和国からギー君(同)、インドネシアからクリス君(生物応用化学科3年)の計4名の留学生を迎え、寮生の総数は177名となりました。今年度より新しく寮務主事となった石丸先生より、「私も今年度から新しく寮務主事になりました。みなさんの協力をお願いします。新入寮生は早く寮生活に慣れ、勉強や部活動を頑張ってください。上級生は新入寮生を温かく迎えてあげてください。みんなで寮をよりよくしていきましょう」、新寮長の篠崎君(電気電子工学科4年)より、「楽しい寮生活を送ってください。」との挨拶がありました。

また、今年度の寮務主事室のメンバー(中尾、松本、龍頭、川嶋の各先生方)、新寮生会の役員が紹介されました。



## ● 避難訓練 ●

4月16日(木)の放課後、避難訓練が実施されました。今回は洪水が起こったという想定のもとで、避難経路、集合場所、点呼方法の確認を行いました。避難経路の確認のため、消防隊長の谷光君(材料工学科4年)を先頭に、寮生たちは実際に篠山小学校まで徒歩で避難しました。避難命令を伝える寮内放送から30分後には、篠山小学校で全員無事に点呼を終えました。

## ● 春の寮祭 ●

4月18日(土)に、午後から春の寮祭が行われました。外国人留学生を含む寮生と、体験入寮生あわせて170名程度が参加しました。昼間はサッカーとドッジボールで汗を流し、夕方からのバーベキューには校長先生も含めて、寮生同士の交流が行われました。文化委員長の野中君(電気電子工学科4年)を中心とした運営により、楽しい寮祭となりました。



## ● ヘルスチェックキャンペーン ●

5月14日(木)11時30分から14時にかけて、寮食堂においてヘルスチェックキャンペーンが行われました。寮生50名程度(と教職員数名)が参加し、骨密度や毛細血管の状態を顕微鏡で観察し、健康状態を診断していただきました。

## ● テーブルマナー講習会 ●

6月14日(日)の13時15分から15時、寮食堂においてテーブルマナー講習会が開催されました。日ごろから寮食堂で食事を提供して下さっている株式会社魚国総本社九州支社の全面協力のもと、同社の田川剛氏を講師として迎え、洋食のコース料理におけるテーブルマナーを、実際にコース料理を楽しみながら学びました。講習会にはスーツにネクタイ、または学生服に身を包んだ20名の寮生(筑水寮:13名、つつじ寮:7名)が参加して、オードブルから始まり、季節のサラダ、メイン料理の牛肉の赤ワイン煮、最後にデザートのコース料理を慣れない手つきで楽しんでいました。テーブルマナーについて、普段あまり意識することはありませんでしたが、この講習を通して、参加者たちは正しい知識を得ることができたことでしょう。

## ● 今後の予定 ●

筑水寮・つつじ寮では、今後、以下のような行事を予定しています。

行 事 予 定	
7月 5日～ 7月12日	第2回体験入寮
10月 4日～10月11日	第3回体験入寮
10月 4日	和食作法講習会
10月14日	防災訓練
12月12日	冬の寮祭
12月13日～12月20日	第4回体験入寮
1月13日	成人式

## 技能功労賞の表彰について

教育研究支援室第三技術グループ長  
技術専門職員 南條 潔

私は、昭和49年9月1日付で学生課教務係文部技官として採用され、金属工学科(現、材料工学科)に配属されました。

採用当時は、金属工学科におられた西(谷口)希一教授、松原安宏助教授、本田義興助手の研究補助としての学科の溶解鑄造を行うだけではなく学科学生に対して、学生実験及び卒業研究の指導をして参りました。

現在、学生実験や卒業研究を指導しながら、材料工学科の笹栗信也教授、山本郁准教授の研究補助を行っています。

去る4月3日(金)、九州工業大学で開催された日本鑄造工学会九州支部総会において、技能功労賞を受賞しました。この賞は鑄造に関する現場技術の向上に実効のあったと認められる人物に贈られるもので、本校に赴任後41年間一貫して、学生実験、実習及び卒業研究で学生の指導を行って鑄造分野で活躍する学生の輩出に尽力しました。また、本校における鑄造関連分野研究の遂行に大きく貢献するとともに、鑄造に関する現場技術の向上や鑄造業界の発展に大きく寄与したことが認められたものです。

教育研究支援室第三技術グループ長として、今後も後輩らによる現場技術の向上を願ってやみません。

尚、ご推薦いただいた笹栗教授、山本准教授に深く感謝いたします。



## 第13回 神奈川大学全国高校生 理科・科学論文大賞 授賞報告 一般科目(理科系)教授 松田 康雄

私、松田康雄(一般理科)は、これまで有志の学生を募って数学の研究活動を行ってきました。現在も、数学に興味のある学生を中心に研究活動を続けています。平成26年度は、5名の学生が4本の研究論文を完成させ、それを標記のコンクールに応募しました。このコンクールは、神奈川大学が高等学校での学習・研究に新たな目標を与え、広く理科教育を支援する試みとして創設したものです。平成26年度は全国45校から93編の応募がありました。その中で本校の学生は以下のような賞を受賞しました。(平成26年度の学年)

### 受賞内容

#### 1. 努力賞

3 E 木太久 稜「ネフロイドの研究」

○ 優秀1、優秀3に次ぐ15編の中に選ばれた。

#### 2. 団体奨励賞 努力賞1編の他に

1 E 白水孝始「すべて異なる確率」

2 M 梶澤勇紀「久留米に関わる  
和算の研究」

3 C 鶴岡茜、3C田中穂乃香「無限  
小数と分数」

○ 全国5校の中に選ばれた。

今回の受賞を励みにして、さらに数学および数理的な研究活動を続けていきたいと思っています。



団体奨励賞の賞状

## 第14回日本情報オリンピック本選地区別成績優秀者

制御情報工学科2年 前田 南樹

高専に入学する前は、僕はゲームが大好きだったので毎日ゲームばかりしていました。しかし、高専に入学してプログラミングラボ部に入部したことで僕の人生は大きく変わりました。

5月にプログラミングラボ部に入って、僕は競技プログラミングというものに出会いました。競技プログラミングとは、プログラミングを使って与えられた問題を早く正確に解く能力を競う、いわば頭を使ったスポーツです。もともとゲームが好きだった僕は、他人と競い合う競技プログラミングに完全に惹かれました。

それからというもの、僕は毎日のように競技プログラミングの問題を解いていましたが、7月頃から急に熱が冷めて、部活にも行かなくなってしまいました。とくに目標がなかったので飽きてしまったのです。

そのままだったらと過ごす日々が続いたのですが、10月ごろに情報オリンピックの存在を知ったことで再び競技プログラミングに取り組むようになりました。情報オリンピックとは競技プログラミングの能力を競う大会で、予選を通過すると東京で開催される本戦に無料で行けるのでそれを目標に頑張ろうと思いました。

情報オリンピックの予選は12月に行われるので、2か月で予選を通過するために必要な主なテクニックやアルゴリズム、プログラ

ミングの技術などを習得しなければなりません。無我夢中で頑張っていたら、2か月はあっという間に終わりました。

その後、無事予選を通過した僕の次の目標は本戦で悔いのない結果を残すことでした。そのために冬休みでは毎日10時間以上競技プログラミングに取り組みました。一週間で100問の問題を解いたこともありました。

このような努力のおかげで、本戦では九州1位という結果を残すことが出来ました。これはとても嬉しいことでした。しかし、日本全体で20位以内に入ると国際情報オリンピックの日本代表選考合宿に招待されるのですが、それにはあと一歩及びませんでした。僕の一つ上の順位の人までが合宿に招待されていたので、とても悔いが残ります。

今年は去年のような後悔をしないために、去年以上に努力をして日本代表選考合宿に参加し、日本代表を目指していきたいと思っています。



本号掲載記事の無断転載を禁止します